

ネットワーク

## 「環境にやさしいまち」えべつを 未来へ

最前線紹介

北海道江別市生活環境部環境室環境課

江別市は、北海道最大の都市・札幌市に隣接しており、市内には日本三大河川の一つである石狩川が流れ、世界有数の平地原生林である野幌森林公園があり、都市機能と自然が調和したまちです。明治4年、宮城県涌谷領から21戸76人が江別に最初に移住して以来、各地からも屯田兵が入地して計画的な開拓が進められ、石狩川と千歳川の舟運と鉄道の陸運とが交わる交通の要衝として栄えてきました。昭和30年代後半から40年代にかけて、札幌市への人口集中の影響を受けて隣接する当市でも人口が急増。工業団地の整備や教育・研究施設の立地などにより、道央圏では札幌市に次ぐ規模に成長しました。平成26年に市制施行60周年を迎え、現在の人口は約11万9千人を数えています。

当市は、まちづくりの基本理念のひとつに「環境にやさしいまち」を掲げているほか、環境基本条例の前文には「私たちは、良好な環境のもと、健康で文化的な生活を営む権利を有するとともに、良好な環境を保全し、将来の世代に引き継ぐ責務を担っている。」と記されており、その実現のため、私たち環境課は日々業務に励んでいます。環境課には12名の職員がおり、市民からの相談や苦情に対応するほか、大気や河川水質、工場排水や環境騒音に関する調査、自然環境に関すること、環境政策に関する事、学校教育と連携した環境教育事業などを行っています。

市民から寄せられる相談や苦情の中には、規制の対象とならない、日常生活に起因するものが少なからずあり、法や条例に基づいた指導ができないがゆえに、対応に苦慮することも多々あります。苦情を申し立てる方は、発生源に対して厳しい対応を求める場合が多いのですが、そのような申し立てに対しては、法的な規制の対象にならないことを説明するほか、直接発生源に対して申し立てても進展が無い場合は、自治会に相談するなど地域内での円満な解決に努めていただくよう、できるだけ親身な姿勢を示しつつお願いをしています。

江別市は現在、平成28年度から30年度まで、千歳川水系水質保全連絡会議（略称：千水連）の幹事を務めています。千水連とは、千歳川の良好な水質を保全するため、流域内の情報交換などを目的として、昭和49年2月に流域の4市2町（千歳市、恵庭市、北広島市、長沼町、南幌町、江別市）が参集し、関係する2振興局（石狩振興局、空知総合振興局）とともに発足させたものです。その後、平成2年に江別市水道部と<sup>ながほろ</sup>長幌上水道企業団、翌3年に石狩東部広域水道企業団が加わり、現在に至っています。

千水連の発足の背景としては、わが国が昭和30～40年代に飛躍的な経済発展を遂げる一方で、環

境汚染や自然破壊などが進行し、汚濁の進行とともに清流が失われつつある中、千歳川も次第に水質の悪化が進行し、多様な生物が生息する川沿いの自然環境への影響も見られ始めたことによります。また、流域を構成する4市2町では、千歳川の水を水道の水源としてはもとより、生活や産業などのさまざまな活動に利用してきました。



**河川水質調査作業の様子**

こうした背景を踏まえて、千水連ではこれまでに合同の河川水質調査を年6回行ってきたほか、川下り調査や事業場視察などを通して、情報交換を行いながら千歳川を取り巻く環境の現況把握に努めてきました。江別市も千水連の一員として、これらの事業に積極的に参加してきました。

今後とも、良好な環境を保持し、江別市が市民にとって快適で暮らしやすいまちであり続けるよう、私たちが日々努力していく所存です。